

第1回 市川市新庁舎建設設計者選考委員会 会議録

- 1 開催日時：平成25年9月18日（水） 午後2時00分～午後4時45分
- 2 場 所：市役所本庁舎3階 第4委員会室
- 3 出席者：
委 員 歌代委員、岡本委員、川上委員、川岸委員、前野委員、武藤委員、
山本委員（欠席者 加藤委員）
事務局 大久保市長（途中退席）、吉野企画部次長、田中企画部次長（途中退席）、岩井室長以下庁舎整備推進担当室6名
- 4 議 事
 - (1) 委嘱状交付式
 - ① 辞令交付
 - ② 市長挨拶
 - ③ 各委員の紹介
 - (2) 第1回 市川市新庁舎建設設計者選考委員会
 - ① 議題 第1号 委員長の互選について
 - ② 議題 第2号 新庁舎建設設計者の応募要領・選考要領について
 - ③ その他

【午後2時00分開会】

- 1 委嘱状交付式
 - (1) 辞令交付
 - ・大久保市長より、各委員へ委嘱状を交付
 - (2) 市長挨拶
 - ・大久保市長より、挨拶
 - (3) 各委員の紹介
 - ・出席各委員による自己紹介
- 2 第1回 市川市新庁舎建設設計者選考委員会
 - (1) 議題 第1号 委員長の互選について
 - ・委員長を選出

(2) 議題 第2号 新庁舎建設設計者の応募要領・選考要領について

① 参加資格について

- ・応募資格を市川市の入札参加業者適格者名簿に登録されており、かつ庁舎で15,000㎡の設計実績がある者とした場合には、相当の大手が対象となるが、応募してこない可能性もある。書類審査で、実績を評価するのだから、入口を狭める必要はない。また、市の名簿登録のない会社など、能力があるのに対象から外してしまうのは惜しい。
- ・昨年と状況が変化し、設計事務所が忙しくなっている。庁舎実績に限定せず、類似施設を含めてはどうか。最低、5者程度の参加が見込めるように、無理のない範囲で資格要件を緩める必要がある。
- ・参加資格を問題のない範囲で広げてはどうか。また、入札参加業者適格者名簿への登録が可能になるように、登録の期間短縮について検討して欲しい。
- ・公共施設で15,000㎡の規模はかなり大きい部類。対象を広げるため、「庁舎」を「公共施設」にしてはどうか。また、市川市と同等規模の町田市の条件は3,000㎡であり、せめて10,000㎡にしてはどうか。
- ・緩和した場合に、どのくらい対象が増えるかを事務局で確認をしてほしい。やみくもに増やすということでもない。

⇒応募者が適正な数になるよう調査し、参加資格を検討していく。

② 1次選考（評価項目、配点）について

- ・一次選考「業務実施の方針」、二次選考「業務実施方針及び手法」の内容の関連性はどうか。

⇒二次選考は、「設計工程」「特定テーマに対する技術提案」「取り組みは業務の理解度」という重要な部分について技術提案を評価する。

一次選考は、事務所、技術者の客観的評価のほか、提案力も判断したいと考え、業務の実施方針という主観的評価を加えた。その中で、事業の進め方・今後の社会認識といった点をテーマとした。

- ・東北の復興、東京オリンピック需要などで、設計事務所が忙しい時期である仕事を一杯抱えている事務所は、選ばれたとしても、良い仕事が出来ない。これからの仕事をどのくらい抱えているか。ということも、評価の対象にしてはどうか。
- ・一次と二次は関連させた方がいい。提出図書で、何を考えているのか、他とどう違うのか、どちらが優れているのかを評価しなければいけない。今回は、7年間かけ2カ所に建設する。高さ制限、庁舎の分散はあるが、40万人のランドマークになる。提出された技術提案が、そこに繋がるようにしなければいけない。このことに対し、どのような実施方針で取り組もうとしているのか。そういった事がきちんと提案されることが必要である。
- ・一次選考で何をスクリーニングしているのかというメッセージが必要であり、

市川市はこういうことが大事だというメッセージを出し、レスポンスを求めるといのが、プロポーザルだと思う。そうでないと、それぞれ業者が持っている手持ちの提案が提出されてしまう。

- ・どの事務所からも抽象的な提案が出てくると非常に点数が付けづらくなる。具体的な聞き方が非常に重要になる。抽象的な聞き方はしない方が良い。
- ・設計者選定後に、基本設計・実施設計をどう詰めていくかが大変である。その間に市民参加もある。市民参加への取り組みについて、一次審査の評価項目にはあるが、二次審査にも必要ではないか。職員も含め一番使っている人たちの視点を入れるべきである。
- ・基本構想との関連をどのように業務実施の方針に入れていくのかという項目があった方が良いのではないか。
- ・実施方針の提案については、具体的な項目として、庁舎設計にあたり「7年間の工事工程でどのように設計を進めようと思っているのか。」「庁舎の建設場所、規模を踏まえ、どういう実施方針で取り組むか。」「市民あるいは職員とどのようなプロセスで設計を進めるのか。」という課題を与えてはどうか。具体的で各社の比較ができるような項目にして欲しい。
- ・基本構想をふまえた実施方針。工程管理は「仮設を含めた工程管理」という言葉を入れたい。
- ・設計チームが、どういう体制で取り組むのかを知りたい。大手の事務所もあればアトリエ系事務所もあるので、実際どういうチームで編成するのかというのとはとらえておきたい。

⇒意見を参考に検討し、検討結果を確認してもらうようにする。

③ 2次選考（評価項目、配点）について

- ・「設計工程計画」と特定テーマ「工程及び施工方法の考え方」の内容が似通っているが違いは何か
- ⇒「設計工程計画」では、設計内容、項目の理解度。特定テーマの「工程及び施工方法の考え方」は、工事も含め、資材高騰や解体設計など全体工程の提案を求めるもの。
- ・工程の理解度として設計工程計画を求めるのであれば、重複する特定テーマ「工程及び施工方法の考え方」は削除した方が良い。
 - ・職員の意見、市民の調整は、設計工程の中に、表現してもらう。
 - ・30年経過すると市役所の機能が変化し、部署も変わってくるため、可変に対応する必要がある。時代の変化に対応できる庁舎設計をどう考えるのかということ提案させてはどうか。
 - ・基本構想から網羅的になっており、ここに頼むと、おもしろい提案が出てくる、ということ把握する必要がある。
 - ・「30年経っても陳腐化しない市役所像」とした理由は。

- ⇒「陳腐化しない市役所像」は、将来、人口や車の減少や、書類が電子化されるなど、庁舎の使い方が変わってくる。その中で庁舎が古びない、いつの状況にも対応できるような提案を自由意見として、記入してもらうことを考えていた。
- ・「30年経っても陳腐化しない市役所像」について、少し表現を変え、「時代の変容によって、市役所はどのようにあるべきと考えますか。」としてはどうか。
 - ・「陳腐化しない市役所像」は、将来の人口減少、市役所機能縮小などに、どの程度まで構造的にハード面で可変性を持たせられるか。しかも、2つの庁舎を持つので、どちらかに可変性を持たせるとか、そういう提案があれば良いと思う。
 - ・両方の敷地の関係性を含めて、提案をさせた方が良い。
 - ・自由に提案してもらったほうが、提案を十分に引き出せると思う。
 - ・技術提案は、空間と時間と金と場所、それに対しての技術的な提案を求めるべきである。時間は、建築30年後の可変性。空間を支える構造・部材をどうするとか。
 - ・プレゼンテーションで、設計者の売りにしているもの、市川市に合ったものを提案して貰うためのメッセージを出してもらいたい。
 - ・特定テーマの「30年経っても陳腐化しない市役所像」は、時代の変化に対応する構造的な材料。そして、庁舎空間の評価ポイントは、2つの庁舎、30年（長期的）の使い方、仮設の考え方、あるいは、庁舎間の連携、そういった部分を残し、課題として、テーマだけを残すというやり方もある。特定テーマの「地域特性」は、道路改良が難しく、かなり動線が厳しい状況にあるので、提案を受けた方が良い。
 - ・ライフサイクルコストの縮減の考え方は、設計事務所に既に持っているものをそのまま加工してくることもあるので、もう少しテーマを出して、答えてもらったほうが良い。
 - ・こういう狭い敷地で、例えば建物がデコボコするところが出てくると思うが、その制約の中でライフサイクルコストの縮減に関する提案というのは、かなり難しいのではないかと思う。
 - ・この条件では、確かにこのテーマは難しいと思うが、逆に良いアイデアが出て来れば良いと思う。
 - ・課題設定は、大きな項目だけを出し、提案させる内容については、判断基準としての項目を残してはどうか。
- ⇒意見を参考に検討し、検討結果を確認してもらうようにする。

【午後4時45分開会】